

■観光の旅

奥からバスで那覇に戻った翌日 11 月 8 日（土）、波照間島に行くために先ず飛行機で石垣島に渡る。スカイマークの運賃は行きが 6,000 円、帰りが 5,500 円だった。波照間島には次の日の高速艇第 1 便に乗る予定なので、その日は石垣島のすぐ隣にある人口 355 人の小さな竹富島に行った。

竹富島は多くの御嶽と昔からの神事が継承されていて、沖縄独特の家並みと美しい海がある。ホテルや土産物屋は規制しているらしく、落ち着きがあり静かなところに人気があるのだろう、観光客が多かった。

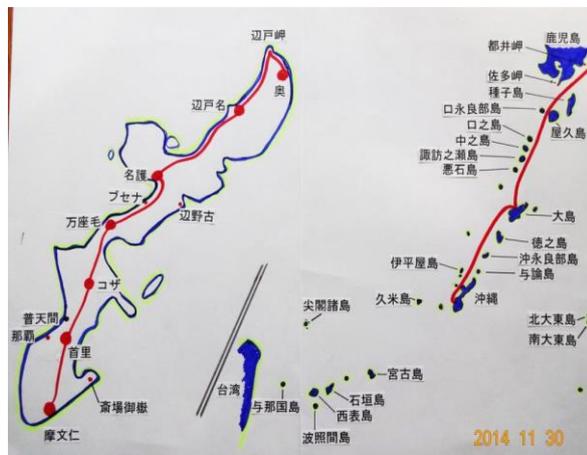
石垣港には海上保安庁の PL 級巡視船が 7 隻係留されていた。この海域は第十管区海上保安部の管轄で、石垣島から北方約 150Km にある尖閣諸島警備にも当たっている。

次の日の朝、石垣港に行ってみると、心配していたとおり第 1 便は出港するが、海が荒れているので波照間島からその日の便で戻れるかどうかは分からないという。波照間島は外洋にあるので、天候によってしょっちゅう欠航するらしい。変更出来ない航空チケットを持っているので波照間島は諦めた。

その代わり、ちょうど西表島行き的高速艇が出港するところだったのでそれに飛び乗った。西表島の上原港行は北風が強く欠航しているのので、南にある大原港行きだった。港に着いてすぐ仲間川遊覧船に乗ってマングローブクルーズ。説明にマングローブの木々は海水を好んでここに居るのではなく、水と光が必要でしかも成長が遅いため条件のよい場所では他の木々に負ける。それで仕方なく海辺を選んでいる。その証拠に真水をやっていると成長が速い、と。

その後、島内を観て回るためにレンタルミニバイクを借りて島を半周した。バイクは何十年かぶりに乗るが、車はほとんど走っていないので安心。往復約 70Km をドライブしながら由布島の水牛車乗場や星砂の浜などに寄って 4 時間ほど気ままに過ごす。

由布島のパラダイスガーデンは、始め一組の夫婦が 1 頭の水牛を使ってパラダイスガーデンを夢見てコツコツと造ったもので、当初は観光目的に造られたものではないらしい。西表から 400m にある小さな由布島に水牛車を使って渡すのが人気になり、今は西表島観



<竹富島>

光の目玉の一つになっていて、この日も多くの観光バスが来ていた。水牛は今 30 頭ほど居てお金のかかった立派な牛舎に居る、と長年水牛車を操縦している人の良さそうなおじさんが話してくれた。島には渡っていないが、きれいな海を水牛に引かれて静かに渡り、ガーデンを見てまわるのは西表島に相応しい観光コースだ。

ドライブの途中に「イリオモテヤマネコに注意」という標識が幾つも掲げてあった。

西表島を観光した翌日、石垣島から飛行機で那覇空港に戻り、歩いて旧海軍司令部壕に行く。昭和 20 年 6 月米軍に包囲される中、沖縄根拠地司令官大田實少将がここで自決する直前に海軍次官に宛てた電報で、沖縄県民の献身的作戦協力について訴えたことがくり返し放送されていた。見学の後、壕のある丘の公園で地元の人や中国系観光客の家族が、大きな滑り台で子供を遊ばせているのを眺めながらコンビニ弁当を食べた。

沖縄最後の夜は、那覇で大学時代のクラブの後輩と 45 年ぶりに再会。息子に会社の経営を渡すまで後十年頑張る、と元気だった。

出発してから 2 週間、11 月 11 日（火）神戸に帰る日。帰りはスカイマーク那覇空港発 19:40、神戸空港着 21:30 を取っているのもそれまで時間がある。沖縄県立博物館と美術館に寄り、国際通りの奥にある戦後闇市時代の雰囲気も残る商店街をくまなく観て回った。昔の雑多な雰囲気を残しながら、国内外の観光客がワクワクするような商店街に発展すればと思う。

## ■宿

宿は素泊り宿×4 泊、2 食付き民宿×3 泊、ビジネスホテル×4 泊。本土の旅と違ったのは、若者向けの素泊り宿を多く利用したことだ。歩き旅は山登りのような感覚なので、途中でビジネスホテルに泊まると豪華すぎて居心地が悪い。素泊り宿 4 軒の料金はそれぞれ 3,150 円、3,500 円、3,500 円、2,808 円。2 食付き民宿 3 軒の宿泊料は、それぞれ 4,500 円、5,200 円、6,000 円、と安く、全国チェーンのビジネスホテルは 5,000 円～6,000 円台



<由布島の水牛車>



<旧海軍司令部壕>



<国際通りから南へ延びる商店街の市場>

で本土と一緒にだ。宿はどこも快適だったが、那覇のユースホテルで、酔っ払った若者がトイレで吐く音に夜中まで悩まされた。ビジネスホテル以外は皆シャワーだったが、暖かいので何の支障もない。民宿での主人や同宿の人との話は興味深く楽しかった。

### ■旅を振り返って

沖縄は今回が初めての訪問であり見所も多いので、歩き旅1週間に観光1週間を加えて2週間のスケジュールを立てた。歩き旅も1日の距離を短くしたので道草を喰う余裕があり、これまでの目的地へまっしぐらに進む旅とは一味違う旅となった。スケジュールに余裕があるためにいろいろ見聞でき、多くの出会もあり、また暑くも寒くもなく、雨にも会わずにすんで良い旅だった。

経費は交通費が6万円、宿泊費が11泊で4万円、食費その他4万円。交通費がかかった分宿泊費が安かったので、これまでの歩き旅と同じように総て込みで1日1万円という計算になる。

旅の間、沖縄は知事選挙の最中。幟が立ち並び選挙カーが盛んに訴えていた。立候補者は下地幹郎(元衆議院議員)、喜納昌吉(音楽家・元参議院議員)、翁長有志(前那覇市長)、仲井眞弘多(前知事)の四氏。テレビの政見放送を観ると、翁長氏の話しぶりが他を押し切っていたので民意は翁長氏に向かうだろうと思っていたところ、やはり大差で当選した。

沖縄は1609年薩摩藩による支配以来、明治維新、太平洋戦争、米軍占領、復帰後の基地問題や全国最下位の県民所得など、数々の苦難の歴史や現実がある中、激しい反対や要求闘争はあっても、どこかおおらかなところがあるように思える。

沖縄県の人口は140万人余り、4年前と比較して人口が増加している都道府県が7つある中の増加率第1位、次が東京都となっている。子供の出生率も高いが移住転入者も多いようだ。沖縄の気候風土と共に大らかな人情に惹かれる人が多いのだろう。私もすっかり沖縄が好きになってしまった。

さて、歩き旅の時はいつもお土産はない。今回もそのつもりで帰って来たものの、半分は観光なのでどうもまずい気がする。そこで思いついたのが、帰って直ぐの結婚記念日にサプライズのプレゼントだ。早速近所の花屋さんに行き、「これ」と指さして深紅のバラを10本ほど買ってプレゼントしたところ「私はあなたのお母さんではありません」、と。カーネーションだった。道理で安かったはずだ。



<家の守り神シーサーの人形>